

トマトの後始末時にはコナジラミ類駆除の徹底を！

トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) の蔓延を防ぐ

ために、媒介虫であるタバココナジラミを徹底的に除去



写真
左：タバココナジラミ
体長0.8mm
右：トマト黄化葉巻病
新葉が黄化しながら
葉巻症状となる。

コナジラミ類の生息地を断つ

- ・日ごろからハウス内外の除草を徹底。コナジラミ類もTYLCVも雑草や周辺の植物に寄生可能。タバココナジラミは寄主範囲が広くキク科、アブラナ科、ウリ科、マメ科など30科88種の植物に寄生。特に野良トマトはウイルスの感染源となっています。
- ・タバココナジラミを3日放置（一匹/株）すると、TYLCVは半径2m以上に感染します。

前作の枯死処理・蒸しこみを行い、虫を駆逐する

- ・生育後半に感染した場合、ウイルスの症状が分かりにくい場合があります。すべての圃場でコナジラミ類等の虫を持ち越さないよう慎重に処置を行って下さい
- ・枯死処理、蒸しこみを行い、残渣は放置せず焼却・埋却等すること。
- ・苗を前作トマトと同スペースに置かない！

苗は粒剤等で感染予防

- ・播種する場合は培土に粒剤混合、購入苗は到着後直ちに粒剤散布、灌注処理を行っておく。※購入苗は散布履歴を確認し使用回数に注意する
- ・生育初期に感染するほど被害は大きくなります



図 タバココナジラミが苗に移動しTYLCVを感染させる

表 登録農薬(トマト)播種時～育苗後半の農薬(コナジラミ類)

使用時期	RACコード	系統名	薬剤名	使用量	使用回数 定植までの処理
播種前	4A	ネオニコチノイド	アルバリン粒剤	10g/培土Q 培土混和	1回※1
播種時・鉢上げ時			スタークル粒剤		
育苗期	28	ジアミド	ベストガード粒剤	5g/培土Q 育苗培土混和 1～2g/株 株元処理	1回
鉢上げ時			プリロッソ粒剤	2g/株 育苗培土混和	
育苗後半～定植時			ベリマーク SC	2g/株 株元散布	
育苗後半～定植当日	28	ジアミド ネオニコチノイド	アベイル粒剤	25ml/400株（水10～20Qに希釈して使用）灌注	1回※2
	4A 28		アベイル粒剤	2g/株 株元散布	

※1ジノテフランを含む農薬の使用回数 ※2シアントラニプロールを含む農薬の使用回数 ※3アセタミプリド・シアントラニプロールを含む農薬の使用回数

侵入防止資材を利用してコナジラミ類等の対策を！

- ・施設開口部に0.4mmのネット設置
- ・近紫外線除去フィルムを使用
- ・ハウス周辺に光反射マルチを設置

◇◇◇ 最新の農薬登録情報 (<http://pesticide.maff.go.jp>) を確認して下さい ◇◇◇

福井県農業試験場病害虫防除室

連絡先 0776(54)5100

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html>

QRコードをスキャンしてください →



農薬の安全使用に努めて適期防除しよう

